

## 2012 年国際地理オリンピック代表強化合宿参加報告

群馬県立前橋高等学校 教諭 中村 理恵

### 1 はじめに

平成 24 年 6 月 2 日（土）・3 日（日）に京都府木津川市において、今年度 2012 国際地理オリンピック・ドイツ（ケルン）大会に参加する日本代表 4 名の強化合宿が、国際地理オリンピック日本委員会実行委員会主催で京都府木津川市（1 日目）および奈良教育大学（2 日目）を会場に行われた。この報告は、筆者が合宿にオブザーバーとして参加した内容を伝え、今後の先生方の地理教育に生かせる参考になれば、と報告する次第である。

なお、ここに報告する内容は、研究発表会では発表しきれなかった内容を補足することを主体として、資料性の高いものを重点に行いたい。

### 2 2012 年 IGEO ケルン大会について

#### (1) 国際地理オリンピック概要

国際地理オリンピックは 1996 年にオランダにて第 1 回大会が開催された。2012 年のドイツ（ケルン）大会（以下ケルン大会と表記）は第 9 回目である。日本は 2008 年から組織的参加を開始し、毎年 4 名の生徒を派遣、今回は 3 回目の参加であった。国際大会は隔年で開催されているが、2013 年からは毎年開催される（2013 年は京都）。今回は、33 か国・地域から 128 名の生徒が参加し、日本代表は銅メダルを加藤規新君が受賞した\*1。

#### (2) 2012 年ケルン大会代表選出について

第 1 次予選は平成 24 年 1 月 21 日（土）に実施され、60 分のマルチメディアテストを 571 名が受験した。これは 1 分間ごとに画面がかわる問題約 50 問（日本語約 40 問、英語約 10 問）に解答するものである。第 2 次予選は、平成 24 年 3 月 11 日（日）に、第 1 次予選通過者 124 名に対して 120 分の日本語および英語による論述試験が行われた。その結果、以下 4

名の生徒が日本代表となった。

伊藤健太（群馬県立中央中等高等学校 3 年）

吉重 元（筑波大学附属駒場高等学校 2 年）

加藤規新（奈良女子大学附属中等教育学校 3 年）

太田龍生（広島大学附属福山高等学校 3 年）

このように、2012 年ケルン大会は本県から日本代表生徒が選出された年となった。群馬県としては初の代表生徒である。

#### (3) ケルン大会概要

強化合宿時に発表された 2012 年ケルン大会の日程概要は以下のとおりであった。

8 月 21 日（火）到着受付、開会式（ケルン大学）

8 月 22 日（水）午前、筆記試験（2.5～3 時間）。

午後、フィールドワーク事前指導（1.5 時間）。

夕食後、国際文化交流会準備。

8 月 23 日（木）午前、フィールドワークテスト

（地図技能 24 問、3～4 時間）。午後、マル

チメディアテスト（1～1.5 時間）、地理ポス

タープレゼンテーション。夕食後、国際文化

交流会準備。

8 月 24 日（金）午前、午後、フィールドワーク

テスト（意思決定 32 問 3 時間）。夕食後、国

際文化交流会。

8 月 25 日（土）終日、遠足。

8 月 26 日（日）ケルンガイドツアー（小学生の案内）。閉会式。

実際の大会への参加報告は別の機会を待ちたい。

#### (4) ケルン大会に向けた今年の課題

まず、強化合宿で示されたケルン大会テストの配点は以下のとおりであった。ライティングテスト 40%、フィールドワークテスト 40%、マルチメディアテスト 20%である。

昨年度のマキシコ・メリダ大会では、マルチメディアテストでは健闘したものの、ライティ

ングテストで下位グループ、フィールドワークテストでは最下位グループで、総合成績も最下位グループに終わった。

メダル獲得への課題としては、ライティングテストとフィールドワークテスト対策、とくにフィールドワークテスト対策が重要という認識である。現地での行動でいかに観察し、メモをするかが鍵であり、「地理」というよりも「地理学」と考えた方がよいであろう、ということであった。

#### (5) ケルン大会で焦点となる内容

今回のケルン大会で焦点化されるトピックは、ドイツのギムナジウム教科書の内容が反映されているということであった。それは以下の15項目である。

1. 気候及び気候変化
2. 災害および災害管理
3. 資源および資源管理
4. 環境地理および持続的発展
5. 地形、景観および土地利用
6. 農業地理および食料問題
7. 人口および人口変化
8. 経済地理およびグローバル化
9. 開発地理と空間的不均等
10. 都市地理、都市更新および都市計画
11. 観光および観光管理
12. 文化地理および地域的特性
13. 読図・分析・解釈と描図技術
14. 調査し、問題を解決する技術
15. グラフや図の技術（読む、分析しイメージする、写真や統計グラフの分析と解釈）

#### (6) 国際文化交流会の概要

ケルン大会での国際文化交流会は以下のように実施された。ただし、示したのは、強化合宿で示された事前指導用の流れである。

各国4人の選手たちは4つのテーマ毎に各1名ずつ分かれてワークショップを実施する。各ワークショップは、ケルン大学とミュンスター大学の学生がサポートする。

ワークショップの共通テーマは、「地球村の多様性」および、「多様性の中の統一」で、個別のワークショップのテーマは以下の4つである。

①「パフォーマンスの実演」：異なる文化の中でのコミュニケーションの儀式的の違いなどを詳解する（例：喜怒哀楽の際のその国に特有のジェスチャーなど）。

②「音楽」：文化を融合させる言語としての「音楽」を発表する。各国選手団は、4人で話し合っ、大会までに2曲（CDもしくはDVD）を準備しておく。そのうちの1曲は4人が好きな世界的なアーティストの曲、もう1曲は4人の好きな国内アーティストの曲。

③「ファッションショー」：その国独自の服装を紹介する。すべてのアクセサリや靴を含む伝統的な服装を自国から持参する。

④「スライドショー」：写真はその国をイメージづけるために影響を与える。選手は一人1枚、自国（日本）や地元（各選手の出身地）を紹介する写真を電子データで持参する。

#### (7) ポスターセッションについて

また、強化合宿では大会で行われるポスターセッションについても概要が発表され、代表選手はその準備にあたった。以下はケルン大会のポスターセッションの概要である。

ポスターは大会前に作成してケルンまで持参し、決められた場所に初日から掲出する。また、ポスターに関するプレゼンテーションを1人8分の発表および質疑応答7分で計15分を2回行う。

ポスターのテーマは、今回の大会では「不可欠な資源としての水ー生息地としての水ー」と決められており、自作の図表（地図・写真・図・表・フローチャートなど）を含むことが義務づけられている。また、ポスター全体を100%とすると、20%が文章、40~45%が写真や図表、残りが空白であるのが優れたデザインと指示されている。個人の総合得点には計上されないが、ポスターセッションのみの優秀作表彰が行われる。

#### 3 代表強化合宿について

次に、今回参加した日本代表選手の強化合宿の概要をお伝えする。

##### (1) 強化合宿概要

強化合宿の概要は以下のとおりであった。

1日目：6月2日（土）

午後、JR奈良駅集合。京都府木津川市上狛に移動し、上狛の環濠集落でフィールドワーク。帰宿後、フィールドワークテスト、解説講義受講。夕食後、文化紹介等準備（選手ミーティング）。

2日目：6月3日（日）

午前、奈良教育大学にてマルチメディアテスト及び論述テスト、解説講義受講。IGU講義。ケルン大会に向けた大会概要の把握。午後、選手ミーティング（準備その他）。

## （2）フィールドワーク指導について

日本代表生徒の課題として、フィールドワークテスト対策が必要であるという日本委員会実行委員会の認識のもと、とくにこの合宿ではフィールドワークテスト対策を重点的に行った。

まず、京都府木津川市上狛駅に到着後、示された資料概要および指導は以下のとおりである。指導概要は、昨年度大会（メキシコ合衆国ユカタン州メリダ）での経験をもとに、今回のドイツ大会のリーダーである大谷誠一氏（平塚市立金旭中学校）と香川貴志氏（京都教育大学）がまとめたものである。

### a) 指導概要

フィールドワーク演習では、本番と同様にコース概要を説明し、「観察ポイント」の提示とともに、必要最低限の事前説明を行った。ただし本番では、地点は示されるが「観察ポイント」は明示されないこともあり得るということであった。選手は「観察ポイント」に留意して、観察したこと、考えたことをメモしておき、宿舎帰着後のフィールドワークテスト（室内演習）に備えた。ちなみに、本番では、各国の選手がバラバラにチーム編成となるということであった。また、当日は、透明シートを地図にかぶせ、その透明シートに観察したポイントを書き込んでいく。このシートも採点の対象となる。従って、書き込みは英語での表記が求められる。

### b) コース概要

今回のフィールドワーク合宿のコース概要は以下のとおりであった。

JR奈良線上狛駅→上狛環濠集落（一巡）→

上狛茶問屋街→茶問屋街西部の農業地域→木津川堤防→泉橋寺→福寿園博物館→上狛駅

実際に行ったフィールドワークの概要は、研究発表会で示したが、今回は紙面の都合上割愛させていただく。

### c) 観察ポイント

フィールドワーク開始前に提示された観察ポイントは以下のとおりである。代表生徒は、この、示された観察ポイントを参考に、フィールドワークで気づいたことを、地形図の上にかぶせた透明シートに書き込みを行っていった。代表生徒の観察ポイントのメモは、いずれも主に英語で表記され、以下のポイントに従って、特徴あるポイントと思われる観察事項についてメモをとっていた。

1. Observation of former landscape(e.g.15<sup>th</sup> Century when the Kamikoma main settlement was completed)compared to a present one.
2. Observation of the change of the tea wholesale district in recent years.
3. Observation of the features of agricultural land use.
4. Imagination of the old and new flood-relief measure beside the Kizu-gawa River.

### d) フィールドワークテスト（室内テスト）

フィールドワークから帰ると、すぐ宿舎のミーティングルームで1時間のテストを代表選手は受けた。その質問項目は以下のとおりである。

ただし、テスト後の解説に示された日本語訳資料も添えた。

Answer the questions from #1 to #9

1. Point out elements(it is enough one element)that were absent in 15<sup>th</sup> Century(Kamikoma main settlement was completed)and that we can see often now. However ,exclude electricity, gas and water service.

上狛の中心集落が形成された15世紀にはほとんどなく、現在は普遍的に見られる要素（1

点で可)を指摘せよ。

2. Can you say anything about the interesting shape of the Kamikoma main settlement?

上粕の中心集落の興味深い形状について何か説明せよ。

3. Why does the Yamashiro-Kodo(The ancient road between Nara and Kyoto)run as like a crank in the Kamikoma main settlement?

山背古道(奈良と京都を結んだ古道)は、なぜ上粕の中心集落の中で屈曲しているのか。

4. Guess the former land use of the newly developed housing site around the tea wholesale district, and explain the reason for judgement.

茶問屋街にある新しい住宅開発地の従前の土地利用を推察し、そのように判断した理由を添えよ。

5. Why are there any vineyards in the agricultural area (in the west side of the tea wholesale district)?

農業地域(茶問屋街の西側)においてブドウ畑があるのはなぜか。

6. Refer to the features of the building near the Senkyoji Temple on the right bank of Kizu-gawa, and summarize briefly the old and new feature about a flood-relief measure.

木津川右岸の泉橋寺の近くの建物の特徴を参考にして、水害対策についての新旧の特徴を簡潔にまとめよ。

7. The following data is the quantity of tea(tea leaves)production in recent years (2009 output from E-Stat by National Government,2011 edition).Observe this data and describe briefly the features of tea production comparing with Kamikoma and Kyoto Prefecture.

Tons of Tea leaf production (1 ton =1000kg)

Shizuoka Pref. 35,800

Kagoshima Pref. 23,400

Mie Pref. 6,510

Miyazaki Pref. 3,400

Kyoto Pref. 2,710

次の統計は茶葉の近年における生産高を示している(E-stat2011年版による、2009年データ)。この統計をみて、鹿児島県と京都府の茶葉生産の特徴を比較して簡潔に記せ。

8. (英語略。以下日本語のみ)

別紙の図1と図2を比較して、京都と奈良の間の道路交通の変化に伴って生じた集落の変化を簡潔に記せ。

9. (英語略。以下日本語のみ)

別紙の図1において桑畑であった場所の特徴を記し、そこがどのように変化したのか図2を見ながら右岸と左岸で比較して簡潔に記述せよ。

#### e) 事後指導

室内テストの後、代表生徒は解説講義を受講した。その概要は以下の通りである。

①設問の特徴:設問は、フィールドで観察してきたことに関する設問および開催地をベースにした設問が出題される。

②解答上の注意事項:細かな地誌的知識よりも、基礎的な知識をうまく応用できる力、統計表をグラフ化・地図化する力などが試される。グラフや地図を作成する際には、方位や縮尺、単位や凡例を忘れないよう留意する。

また、解答は非英語圏の採点者もいるので、解答にキーワードを明示してシンプルな英作文を心がけたい。採点の際には、出題者が準備しているキーワードを含んでいるか否かで点数が上下するので、「何が問われているか」を素早く的確に把握し、そこから想起されるキーワードを含む短文作成に注力し、時間が許せば踏み込んだ説明を付加していく方法がよいであろう。

#### 4. おわりに

今回は研究発表会に提示した資料を補完する形で資料を提供した。地理オリンピックの概要を理解し、ともに日常の地理教育に生かしていくような資料になり得たのであれば光栄である。

なお、今回の参加に伴う費用については、実行委員会に全面的に支援を受けたことをあらためて感謝申し上げる。